

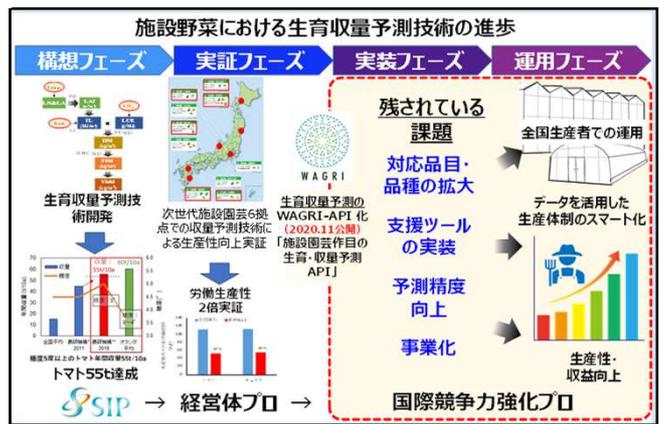
国際競争力強化技術開発プロジェクト 施設野菜の生育収量予測APIにおける多品種対応技術の開発 【研究概要図】

1. 研究目的

トマト、パプリカ、キュウリにおいて、生育収量予測APIの対応品種の拡大およびWAGRIを介した営農支援ツールの実装により、全国の施設生産者における生育収量予測技術を活用した高収益生産体系の確立を目的とする。

2. 研究背景

施設生産現場では、データを活用し、高収益性を実現できる営農支援システムが必要である。農研機構では生育収量予測APIを開発し、WAGRIを介したデータ提供体制を構築している。全国の様々な生産者に活用させるためには、生育モデル係数を拡充し、多品種に対応した高精度の予測技術の提供が必要である。



生育収量予測技術の実装に向けて

3. 研究内容

- ①生育収量予測APIの適用範囲拡大のため、多品種の生育モデル係数取得およびAPIへの搭載
- ②データ収集方法やモデル改良による精度向上および現地実証による予測精度の評価
- ③生育収量予測APIの実用化推進およびWAGRIを介した予測情報提供の現地実装

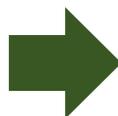


多品種に対応した生育収量予測技術実装

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・ 2年間で3品目計30品種以上の生育モデル係数の取得
- ・ WAGRI-APIの活用による高精度(誤差10%以下)生育収量予測技術の実装



期待される効果

- ・ 全国展開による地域産業の活性化、競争力強化、農産物の安定供給
- ・ 計画生産・生産性の向上による経営の安定化および収益向上
- ・ WAGRIを通じた生育収量予測モデルの普及

研究代表機関：農研機構野菜花き研究部門

共同研究機関：宮城県、徳島県、宮崎県